

第 106 回 宍粟市議会定例会会議録（第 4 号）

招集年月日 令和 4 年 6 月 10 日（金曜日）

招集の場所 宍粟市役所議場

開 会 6 月 10 日 午前 9 時 30 分宣告（第 4 日）

議 事 日 程

日程第 1 一般質問

日程第 2 第 44 号議案 令和 3 年度宍粟市一般会計補正予算（第 12 号）の専決処分（専決第 8 号）の承認について

日程第 3 第 45 号議案 宍粟市税条例の一部改正の専決処分（専決第 9 号）の承認について

第 46 号議案 宍粟市国民健康保険税条例の一部改正の専決処分（専決第 10 号）の承認について

日程第 4 第 48 号議案 令和 4 年度宍粟市一般会計補正予算（第 2 号）

第 49 号議案 令和 4 年度宍粟市病院事業特別会計補正予算（第 1 号）

日程第 5 第 50 号議案 宍粟市田中登奨学基金条例の制定について

第 51 号議案 宍粟市田中登奨学金支給条例の制定について

日程第 6 第 52 号議案 宍粟市職員の互助共済制度に関する条例の一部改正について

日程第 7 第 53 号議案 宍粟市税条例等の一部改正について

日程第 8 第 54 号議案 旧慣による公有財産の使用権の廃止について

日程第 9 第 55 号議案 令和 4 年度宍粟市一般会計補正予算（第 3 号）

日程第 10 第 56 号議案 薦沢小学校統合改修工事請負契約の締結について

追加日程第 1 第 56 号議案 薦沢小学校統合改修工事請負契約の締結について

本日の会議に付した事件

日程第 1 一般質問

日程第 2 第 44 号議案 令和 3 年度宍粟市一般会計補正予算（第 12 号）の専決処分（専決第 8 号）の承認について

日程第 3	第 45号議案	宍粟市税条例の一部改正の専決処分（専決第9号）の承認について
	第 46号議案	宍粟市国民健康保険税条例の一部改正の専決処分（専決第10号）の承認について
日程第 4	第 48号議案	令和4年度宍粟市一般会計補正予算（第2号）
	第 49号議案	令和4年度宍粟市病院事業特別会計補正予算（第1号）
日程第 5	第 50号議案	宍粟市田中登奨学基金条例の制定について
	第 51号議案	宍粟市田中登奨学金支給条例の制定について
日程第 6	第 52号議案	宍粟市職員の互助共済制度に関する条例の一部改正について
日程第 7	第 53号議案	宍粟市税条例等の一部改正について
日程第 8	第 54号議案	旧慣による公有財産の使用権の廃止について
日程第 9	第 55号議案	令和4年度宍粟市一般会計補正予算（第3号）
日程第 10	第 56号議案	薦沢小学校統合改修工事請負契約の締結について
追加日程第 1	第 56号議案	薦沢小学校統合改修工事請負契約の締結について

応 招 議 員（15名）

出 席 議 員（14名）

1 番 中 本 隆 敏 議員	2 番 垣 口 真 也 議員
3 番 神 吉 正 男 議員	4 番 浅 田 雅 昭 議員
5 番 八 木 雄 治 議員	7 番 山 下 由 美 議員
8 番 津 田 晃 伸 議員	9 番 前 田 佳 重 議員
10 番 大 畑 利 明 議員	11 番 田 中 一 郎 議員
12 番 林 克 治 議員	13 番 欠 番
14 番 今 井 和 夫 議員	15 番 大久保 陽 一 議員
16 番 飯 田 吉 則 議員	

欠 席 議 員（1名）

6 番 西 本 諭 議員

職務のために議場に出席した者の職氏名

事務局 長 大 前 和 浩 君 書 記 大 谷 哲 也 君

書 記 小 椋 沙 織 君

書 記 中 瀬 裕 文 君

地方自治法第121条により説明のため出席した者の職氏名

市 長 福 元 晶 三 君

副 市 長 富 田 健 次 君

教 育 長 中 田 直 人 君

市 長 公 室 長 水 口 浩 也 君

総 務 部 長 砂 町 隆 之 君

市 民 生 活 部 長 森 本 和 人 君

健 康 福 祉 部 長 橋 本 徹 君

産 業 部 長 樽 本 勝 弘 君

建 設 部 長 太 中 豊 和 君

一 宮 市 民 局 長 田 路 仁 君

波 賀 市 民 局 長 大 田 敦 子 君

千 種 市 民 局 長 井 口 靖 規 君

会 計 管 理 者 前 川 満 君

総 合 病 院 副 院 長 兼 事 務 部 長 菅 原 誠 君

教 育 委 員 会 教 育 部 長 大 谷 奈 雅 子 君

農 業 委 員 会 事 務 局 長 祐 谷 佳 孝 君

(午前 9時30分 開会)

○議長（飯田吉則君） 皆様、おはようございます。これから本日の会議を開きます。
御報告を申し上げます。

西本 諭議員より、本日の会議を欠席する旨の届けが提出されております。御報告いたします。

本日の議事日程は、あらかじめお手元に配付しておりますとおりであります。

日程に先立ち、諸般の報告をいたします。

本日、市長から議案2件が提出されております。

これで報告を終わります。

それでは日程に入ります。

日程第1 一般質問

○議長（飯田吉則君） 日程第1、一般質問を行います。

通告に基づき順番に発言を許可します。

まず、山下由美議員の一般質問を行います。

7番、山下由美議員。

○7番（山下由美君） 7番の山下です。議長の許可を得ましたので、通告に基づいて一般質問を行います。

外出支援サービス事業について行います。

これまでも、外出支援サービス事業についての質問を行ってきましたが、制度が改正された現状において、外出が困難になったという利用者の声を聞いております。制度の改正について、外出支援サービス事業を利用している人たちの意見を聞く機会が設けられませんでした。利用者にとっては突然通知が来て、その内容に驚かれたそうであります。なぜ、利用者の意見を聴取されなかったのか。

制度改正の説明もなく、納得できないまま外出が困難になって困っているので、すぐには無理だとしても、以前の制度内容に戻すことを検討してほしいという意見があります。検討するべきではないのか。3月議会での私の質問に対し、市長からの回答として、今回の見直しでは、利用者に応益の負担をいただくこととしていると発言されております。この発言における利用者に対して、応益の負担をいただくという考え方及び、その考え方の根拠についての説明を願いたいと思います。

社会福祉制度においては、その人の能力に応じた負担であります。応能負担が原則ではないでしょうか。3月議会の私の質問に対し、健康福祉部長は、病院にかかれなかったり、生活に支障を来すような家庭があるとすれば、外出支援サービスに

かわらず、個別の支援策で対応していくと回答されております。どのような個別の支援策が行われたのか、以上を市長に伺います。

続いて、学校給食費の無料化を。

学校給食費は保護者にとって、義務教育に係る費用の中でも負担が重く、現状におきましては、コロナ禍による物価高騰に直面し、より重い負担となっております。学校給食費の無料化を行うべきではないでしょうか。市長に伺います。

以上で1回目の質問を終わらせていただきます。

○議長（飯田吉則君） 山下由美議員の一般質問に対し、順次答弁を求めます。

福元市長。

○市長（福元晶三君） 皆さんおはようございます。それでは、山下議員の御質問にお答えを申し上げたいと思います。

大きく2点いただいておりますが、私のほうからは、外出支援サービス、このことについて御答弁申し上げたいと、このように思います。

この制度を将来に向けて持続をしていくために、どのような見直しが必要なのかという視点で、協議をこれまで進めてまいりました。協議の段階で、利用料金や、あるいは利用目的など、それぞれの課題を整理して議論が必要でありましたので、見直し案につきましては、議会の常任委員会の御意見もお伺いしながら、また3月議会でも申し上げたとおり、ほかにも、第三者の客観的な意見を求める手法を取り入れてきたところであります。結果といたしまして、利用者の皆様に継続してサービスを提供するためには、利用料金を含めた見直しが必要と判断したものであります。

2点目の、以前の制度に戻すことの検討についての御質問であります。1点目でお答えしたとおり、持続可能な制度として実施できるよう、見直しを行ったものでありますので、現段階で以前の制度に戻すことは考えておりません。4月から見直した内容で事業が始まっておりますので、まずは利用実績による状況把握に努めてまいりたいと、このように考えています。

3点目の応益負担の考え方の御質問であります。制度の見直しを検討する背景の一つに、外出支援サービス事業が他市町の制度と比較して、より手厚いサービスとなっていないかとの指摘がありました。今回の見直しにおいては、市の財政状況を踏まえ、この事業が市の単独事業であるということを前提として、この行政サービスをどのように持続可能なものとしていくかという視点で検討をし、決定をしたところであります。

応益負担の答弁の意味といたしましては、この事業の利用者は、生活困窮者等に限定した制度ではなく、身体的、環境的な状況からタクシーを利用して外出する方に、助成を行う制度でありますので、タクシー料金に対して一定の負担をしていただくという意味で申し上げたところであります。

ただ、今までも応益負担とする中で、これまで低料金で支援してきた経緯や、あるいは利用者の経済的負担を考慮し、引き続き利用者に負担をしていただく利用料金に、上限を設ける制度を維持したところであります。

学校給食については、担当部長より、あるいは特に外出支援サービスの４点目のことについては、それぞれ担当部長より答弁をさせたいと思いますので、よろしくをお願いします。

以上であります。

○議長（飯田吉則君） 橋本健康福祉部長。

○健康福祉部長（橋本 徹君） 私のほうからは、外出支援サービス事業についての４点目の御質問にお答えいたします。

どのような個別の支援策が行われたかについてですが、外出支援サービス事業については、公共交通機関の利用が困難な方に対して、タクシー料金の一部を助成するものであり、この制度見直しが、生活に支障を来すような生活困窮の直接の原因となるものではないと考えております。生活困窮の問題につきましても、現行の社会保障制度の枠内で、個々のケースに応じた支援になると考えております。

なお、今回の見直しに当たって、定期的な通院が欠かせない透析患者に対しては、所得などの一定の要件の下、利用料金の負担軽減を図る制度を設けております。

○議長（飯田吉則君） 大谷教育部長。

○教育委員会教育部長（大谷奈雅子君） 私からは学校給食の無料化、無償化についてお答えいたします。

議員御承知のとおり、当市の学校給食センターは、１食当たり小学生220円、中学生240円を給食費として、保護者の方に御負担をいただく中で、運営を行っております。また、市の地産地消推進事業として、食材費の一部を負担し、令和４年度では1,445万円を負担しております。負担し結果として、地産地消率は全国平均よりも非常に高く、しかも県内でも１位・２位と安い給食費で質の高い給食を提供しています。学校給食費の無償化は、保護者の経済的負担軽減がなされるものの、市の財政からは、現在実施している第３子以降の給食費免除約1,320万円に加え、新たに毎年約１億円程度の一般財源を投入する必要があります。厳しい財政運営の中、

持続可能な学校給食運営を維持するため、学校給食費の無償化の考えはありません。

学校給食法におきましては、食材費は保護者負担を原則としていますが、昨今の食材費等の高騰は、学校給食提供に大きな影響を与えています。給食費を据え置き、子育て世代を支援するため、現在新型コロナ臨時交付金の活用により、高騰する食材費を確保するため、補正予算の追加議案を上程しているところです。

しかしながら、このたびの食材の高騰がいつまで続くのか、現在では見通せません。将来にわたって、安全安心で持続可能な学校給食を提供し続けるためには、今後、状況に応じては給食費全体の議論も必要と考えています。

以上です。

○議長（飯田吉則君） 7番、山下由美議員。

○7番（山下由美君） それでは、外出支援サービス事業について再質問をさせていただきます。

この外出支援サービスの事業内容の見直し、区分、利用対象者、利用料金について、外出支援サービスを利用している利用者、当事者の声や意見を聞くことなく、サービス内容が変更されております。この事実は、宍粟市の最高規範として定められている、宍粟市自治基本条例の基本理念、第4条の2、人権の尊重「市民一人ひとりの人権を尊重してまちづくりを進めること」に従っておらず、市民一人一人の人権が尊重されていないと言えるのではないのでしょうか。市長のお考えをお尋ねいたします。

○議長（飯田吉則君） 福元市長。

○市長（福元晶三君） 私は今回の制度改正について、ただいま議員がおっしゃったようなこととは思っておりません。むしろこれまで、常任委員会等でもいろいろ御議論いただいて、いかにこの制度を持続可能として、それでサービス提供するかという御意見も、そういう議会とも御議論させていただいた、このように認識しております。

同時に3月だったと思いますが、御答弁申し上げたとおり、先ほどの繰り返しになりますが、特に第三者の客観的な意見、こういう視点では、特に障害福祉の計画策定などに関わっていただいている、地域自立支援協議会の委員にもアンケートを取らせていただいたり、また、具体的には、透析患者の皆さんの代表の皆さんとも、一定議論もさせていただきました。その結果、先ほど申し上げたとおり、今回の見直しに至ったと、このように私は理解してます

○議長（飯田吉則君） 7番、山下由美議員。

○ 7 番（山下由美君） 市議会の文教民生常任委員会において、見直し案について当局より説明があり、議論がなされ、様々な質疑がある中で、この改正が行われました。また現在、政策の提言がされておりますが、その前に改正が実行されているというような現状があるのではないかなと考えております。

そのような中で、この外出支援サービスを利用している人の意見を聞くことなく、第三者の客観的な意見を聞くとの視点から、先ほども市長がおっしゃられましたとおり、障害福祉の計画策定などに関わっていただいております、地域自立支援協議会委員にアンケート調査を実施しましたとの説明が、市長よりありました。アンケートの結果を公表されておりますませんが、今回の改正を行うべきであるという意見ばかりであったのかどうかということをお尋ねいたします。

○議長（飯田吉則君） 橋本健康福祉部長。

○健康福祉部長（橋本 徹君） 市長の答弁にもありましたように、またこの3月の議会でも、本議会で説明させていただいたように、地域自立支援協議会の委員の皆様にアンケートによる今回の制度の改正について、お伺いをいたしました。

そのアンケートの細かな集計等は、今手元にございませんけれども、そのアンケートについては、この制度を見直すに当たり、市が持続可能な制度として続けていくことに意義を感じるというような御意見もいただき、今回の令和4年度からの制度改正に至っておるものでございます。

以上です。

○議長（飯田吉則君） 7 番、山下由美議員。

○ 7 番（山下由美君） 先ほど、そういったような意見もいただき、と言われたわけですが、今回の改正を行うべきではないというような意見もあったというわけですね。

○議長（飯田吉則君） 橋本健康福祉部長。

○健康福祉部長（橋本 徹君） いえ、そのようなことではなくて、この制度につきまして、制度改正については、従前の制度が長く続いておりましたので、その制度の改正については御意見もありましたけれども、この改正が次の宍粟市の制度としていくために、理解していくというようなお答えだったと思います。

以上です。

○議長（飯田吉則君） 7 番、山下由美議員。

○ 7 番（山下由美君） その御回答には少しちょっと疑問が残るわけですが、次へ進ませていただきます。また、外出支援サービスの事業者に対しても、2回の会議を

開催し、制度見直しに合わせて、事業を実施する側からの意見を求めたという説明が市長よりありましたが、そのときにどのような意見が出たのか、お示してください。

○議長（飯田吉則君） 橋本健康福祉部長。

○健康福祉部長（橋本 徹君） この事業者への説明につきましても、使用券のこともありまして、そのことも申し上げる中で説明もさせていただきました。これにつきましても、事業の制度の関わりについては、御理解をいただいたということで、この令和4年4月を迎えております。

以上です。

○議長（飯田吉則君） 7番、山下由美議員。

○7番（山下由美君） 申し訳ありませんが、その先ほどの説明に対してもすっきりとはいたしません、次にいかせていただきます。

この地域自立支援協議会や、事業者からの意見聴取結果を公表されておられません。また、当事者の意見も聴取しないで、今回の外出支援サービスの内容変更が行われております。やはり、私は市民一人一人の人権が尊重されていない。そのように考えざるを得ないわけではありますが、市長どのようにお考えでしょうか。

○議長（飯田吉則君） 福元市長。

○市長（福元晶三君） 先ほどの御質問と繰り返しになりますが、私はそのように思っておりません。もともと、この移動の手段を確保する場合に、議員も御承知のとおり、この事業を始めた当初から、やっぱり障がいのある人が医療機関への通院であつたり、あるいは社会参加等を目的に、タクシー等でドア・ツー・ドアでやっていきましょうという制度で、可能な限りそういう制度に沿って、市としての政策としてやっていこうということで、始まったことですので、私は今おっしゃったようなことには値しないと、このように理解してます。

○議長（飯田吉則君） 7番、山下由美議員。

○7番（山下由美君） それでは、市長のお考えがそのようなことであるということ、を理解いたしまして、次に進めさせていただきます。

私は、やはりその外出支援サービス利用者の意見を聴取しないまま、制度の変更が行われている。このことには大変大きな問題が含まれていると思っております。でありますから、外出が困難になり、困っておられる利用者の意見を聞き、今回のサービス内容の変更について、再検討を行うべきではないのかと思うわけですが、先ほどそのような方向性は持っていないと言われましたが、再度、これまでの私の質疑もお考えになられながら、御回答をお願いしたいと思います。

○議長（飯田吉則君） 福元市長。

○市長（福元晶三君） ただいまの質問に対しましては、先ほど答弁をしたとおりであります。ただ、今後将来にわたってどうかということになると、いろんな社会情勢も含めながら、いろんなことでは、当然その時々において検討があるだろうと思うのですが、現段階では先ほど申し上げたとおりであります。

○議長（飯田吉則君） 7番、山下由美議員。

○7番（山下由美君） 今回の制度の変更につきまして、私が考えますことは、まず当事者の意見を全く聞いておられない。地域自立支援協議会の委員へのアンケート調査の結果を公表されておられない。外出支援サービスの事業者に対しても、2回の会議を開催し、事業を実施する側からの意見を求めたと説明がありましたが、その意見の公表もされておられない。今回の制度の内容の変更はどこで決められたものなのか、ということをお尋ねいたします。

○議長（飯田吉則君） 福元市長。

○市長（福元晶三君） 繰り返しになりますが、これまで議会からも、この制度を生かして持続していくのか、これまでのことはどうなのか、今後どうなのかという、それぞれ熱心に委員会も含めて、議会でも御議論いただいたと、私はこのように認識しております。したがって、私はそのことも尊重しながら、3月議会も含めながら、ある意味議案としても議決をいただいて、我々はその方向を向いて進んでおると、このように理解しております。

○議長（飯田吉則君） 7番、山下由美議員。

○7番（山下由美君） 私は、今回のこの制度変更に関しては、宍粟市自治基本条例、市民参画の推進第16条「市民の参画を推進するため、政策等の立案、実施、評価及び改善の過程において、多様な制度と機会を設けなければならない。」これにも反しているというように考えておりますので、やはり当事者の方たちがおっしゃっておられるように、以前の制度内容に戻すということを検討していただくことを強く求めます。

続いて、同じく外出支援サービスの質疑をさせていただきたいと思います。

今回の改正においては、まずとAとして障害者福祉と、Bとして移動困難者支援、これに分けてあります。そして、Aの障害者福祉支援といたしましては、1、手帳所持者、2、透析、3、要介護認定、いずれも該当の等級等が定められております。またBとして、移動困難者支援といたしまして、1、身体的な理由等でバス停までの移動が難しく、バスの利用が困難な原則65歳以上の人、2として運転免許証を所

持していない人のうち、対面での個別調査を実施し、対象と判断された人とあり、その例が挙げられておりますが、常時車椅子を利用している人、認知機能の低下により、時間や場所の理解ができない人などで、個別調査で対象と判断された人としてA、障害者福祉、B、移動困難者支援というふうに分けてあります。

そのようにして、A、障害者福祉とB、移動困難者支援と分け、利用料金の見直しがそれぞれ行われております。障害者福祉に該当する人は、タクシー運賃の上限で示せば、片道800円であったものが片道1,500円へ、移動困難者支援Bに該当する人は、片道800円であったものが片道3,000円へと変更されました。いずれも障害者手帳を提示すれば、この金額より片道50円引きとなるということにはなっております。

このAの障害者福祉に該当する人と、Bの移動困難者支援に該当する人と、区分が分けてありますが、Aの方、Bの方とも外出が困難になられた方であります。なぜ区分を分けて利用料金が見直しされているのか、ということを質問いたします。

○議長（飯田吉則君） 橋本健康福祉部長。

○健康福祉部長（橋本 徹君） この利用の区分が、令和4年の改正により二つに分けております。これにつきましては、令和3年度中のこの制度の見直しに当たって、利用料金と利用目的、それがこの制度を考える中で、どう整理していくかということで、従前はその区分がなく一体となった、それぞれのこの必要とされる方と、対象者という区分だったんですけども、利用料金と利用目的、その中の整理の中で、大きく二つの区分に分け、それぞれの利用対象者ということで整理をさせていただいております。

以上です。

○議長（飯田吉則君） 7番、山下由美議員。

○7番（山下由美君） 高齢になって介護が必要になれば、生きづらさが増して、障がいを持たれているというような状態となるわけであります。ですから、介護と障がいは切り離せない関係であります。そのような理由から、Aに該当する人とBに該当する人として区分をするということは、適切ではないというように考えますが、いかがでしょうか。

○議長（飯田吉則君） 橋本健康福祉部長。

○健康福祉部長（橋本 徹君） 今、介護の方と高齢の方のお話がありましたが、介護を要介護認定3から5に該当される方については、障害者等福祉の中で対象として区分整理をさせていただいております。あと、介護ではなくて目的等があり、移

動困難の方の場合については、移動困難者ということで整理をさせていただいております。

以上です。

○議長（飯田吉則君） 7 番、山下由美議員。

○7 番（山下由美君） 整理の仕方の御説明をしてくださったと思うんですけども、私が尋ねたいのは、その高齢になって介護が必要になったら、やはり生きづらさが増してきます。これは障がいを持たれるということと同じ状態になります。

ですから、介護ということ、あるいは障がいというのは切り離せない関係なわけでありまして。ですから、この A に該当する人、障害者福祉と、あと B に該当する人、移動困難者支援、これを区分を分けるということは、適切ではないというように考えるわけですが、どうでしょうかということをお尋ねしており、お答えいただきたいなと思うわけでありまして。

○議長（飯田吉則君） 橋本健康福祉部長。

○健康福祉部長（橋本 徹君） そもそもこの制度の改正に当たって、この利用対象の方を大きくくくって考えておるところが、今までの制度の中でありましたが、この制度の運用の中では、将来的な皆さんに期待される外出支援サービス事業を、ずっと続けるにはどうかという御意見であったり、御指摘がありまして、その中で利用目的と利用料金とそういうことを鑑みながら、対象者を大きく現時点 4 月の改正では、二つに分けて整理をさせていただいております。

以上であります。

○議長（飯田吉則君） 7 番、山下由美議員。

○7 番（山下由美君） その持続可能なというお言葉をよくおっしゃられておるわけでありまして、今 S D G s ということで誰一人取り残さない、これが基本理念とされておりまして、そしてそのための取組として、全ての人々に健康と福祉を、貧困をなくそう、人や国の不平等をなくそう、住み続けられるまちづくりを、というふうに掲げられております。

これが 2015 年国連で採択、2030 年を目指してこの目標を達成しよう。あとほかにも目標がありますが、私はやはりその持続可能なというのは、この S D G s この誰一人取り残さないという意味合いから、考えていくべきものではないかなと思うのですが、どうでしょうか。

○議長（飯田吉則君） 橋本健康福祉部長。

○健康福祉部長（橋本 徹君） 持続可能なという言葉につきましては、私たち実粟

に住む市民全員が歳を年齢を重ねて、一定の年齢なり、それぞれその体調及び、体の都合で移動が思ったようにできないということがある可能性があります。そういう中で、この外出支援サービスというのが、そのときになったときに、外出を支援する制度として使えるようにしていくために、この４月の時点で改正をさせていただいたということで、御理解をいただきたいと思います。

以上です。

○議長（飯田吉則君） ７番、山下由美議員。

○７番（山下由美君） 私が今、大きな問題として指摘しておりますのは、今回の変更により使えなくなった人たちがおられ、持続可能な誰一人取り残されないというＳＤＧｓ、この基本理念が達成されていないということを質問しておるわけであります。

続いて、質問を続けさせていただきたいと思います。障がい者の福祉制度は、能力に応じた負担が原則となっております。これは私が先ほど言いました介護と障がいは切り離せない関係という、これを前提として質問させていただいております。

この障害者福祉、この福祉制度は、能力に応じた負担これが原則であります。それは憲法により保障されております。憲法の保障する第13条前段、個人の尊厳、「すべて国民は、個人として尊重される」また、第14条１項、法の下での平等、「すべて国民は、法の下に平等であって、人種、信条、性別、社会的身分又は門地により、政治的、経済的又は社会的関係において、差別されない。」

そしてあと生存権、第25条、「すべて国民は、健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有する。国は、すべての生活部面について、社会福祉、社会保障及び公衆衛生の向上及び増進に努めなければならない。」このように、憲法により保障されております。

また、老人福祉法の第２章に、公的責任で必要な介護を保障する措置が規定されております。私は利用者に対して、応益の負担をいただくという、この市長の発言は、適切ではないと考えております。市長、いかがでしょうか。

○議長（飯田吉則君） 福元市長。

○市長（福元晶三君） １回目で御答弁し申し上げたとおりでありますので、私はそのように理解しております。

○議長（飯田吉則君） ７番、山下由美議員。

○７番（山下由美君） それではもう一つ、少し具体的に御質問させていただきたいと思うわけですが、この市長のその応益の負担をいただくという考え方、こ

れが市民生活にどのような影響を及ぼしているのか。この一例を挙げて、説明させていただきたいと思います。

移動困難者に該当した人、この人は、例えば変更前は往復利用料金1,600円で、外出支援サービスを利用されておりました。ところが、変更後は、往復利用料金が6,000円となりました。例えば、農業などに従事されていた期間が長くて、年金が国民年金である。このような人の場合、国民年金満額受給でも、1か月1人、6万5,000円程度であり、応益負担の考え方では、外出支援サービスが利用できないというような現状になっております。1回病院に行くために、6,000円が必要となってまいります。1回病院に行くために、1か月の収入の1割が必要となっております。

市長の応益の負担をいただくという考え方は、憲法や老人福祉法に違反し、市民の生存権を脅かしている。このような現状があると私は思っておりますが、いかがでしょうか

○議長（飯田吉則君） 福元市長。

○市長（福元晶三君） 全く議員とは見解の相違でありますので、私は繰り返し申し上げますが、冒頭申し上げたとおりであります。

○議長（飯田吉則君） 7番、山下由美議員。

○7番（山下由美君） 申し訳ありません。見解の相違でありますというお答えですが、何がどう見解の相違なのかということ、もう少し説明していただけたらと思いますので、お願いします。

○議長（飯田吉則君） 福元市長。

○市長（福元晶三君） 先ほど御質問の応益負担の考え方、いわゆる憲法の違反じゃないの、法の平等、あるいは生存権違反じゃないかと、こうおっしゃるんですが、私はそうではないと、こういうことであります。

1回目の答弁で申し上げたとおり、タクシーを利用して外出される方に助成を行う制度で、タクシー料金に対しまして一定の負担をしていただくと、こういう意味での応益負担と、こういう形で答弁をさせていただいた。このように思います。

○議長（飯田吉則君） 7番、山下由美議員。

○7番（山下由美君） 病院に行くのに、ほかの手段があるならば、その手段を使って行かれると思いますが、その手段がないわけでありまして。外出支援サービスを使うには、現在、移動困難者支援にあてはまった人も、本当に公共交通も利用できないという方であるわけです。そして現実には、往復利用料金1,600円で病院行けてい

たものが、往復利用料金6,000円となって、通院すら困っておられる人が、この栄栗市におられるわけであります。それでも市長はこの応益負担の考え方が、正しいとおっしゃられるわけですか。

○議長（飯田吉則君） 福元市長。

○市長（福元晶三君） はい、繰り返しになりますが、冒頭申し上げたとおりであります。

議長、反問権よろしいでしょうか。

○議長（飯田吉則君） どういった内容でしょう。

○市長（福元晶三君） 内容ですか。具体的なことでお尋ねしたい。

○議長（飯田吉則君） はい、福元市長。

○市長（福元晶三君） いろいろおっしゃっておりますが、私はこれまでも御答弁申し上げたとおり、市の福祉制度の中でもいろいろあるわけでありますが、私は職員も含めて、いろんな個別のケースがあって、それぞれ対応しておるんじゃないかと、このように思います。

先ほどおっしゃった例、6,000円がもしありましたら、具体的なところで教えていただいて、またその方の実情もしながら、いろいろ対応していきたいと思いますので、相対的なお話なのか、個別なのか、また具体があったら教えてください。

○議長（飯田吉則君） 7番、山下由美議員。

○7番（山下由美君） 市長は、今回のこの外出支援サービスの。

○議長（飯田吉則君） 質問に対して教えてください。

○7番（山下由美君） すいません、ちょっと最初の出だしが、質問に対する答えのような形になっておりませんでしたので、質問に対する答えで話させてもらってるつもりだったんですけども、答えさせていただきます。

個別のケースなのか、その全体としてのケースなのか、ということではありますが、それに対しては全体としての、この外出支援サービスの変更により、ほとんどの方が非常に困られているという問題があります。それにこれは何ととっても、当事者の。

○議長（飯田吉則君） すいません。問いに対してだけの回答をお願いします。

○7番（山下由美君） はい。それではちょっとお尋ねいたしますけれども。

○議長（飯田吉則君） ちょっと待って。すいません。山下議員、市長の質疑に対してだけ。答えをお願いします。

○7番（山下由美君） はい。申し訳ありません。反問権に対しての答えが先ほどだ

ったので、こちらがもう一つ質問をするということではできませんね。

○議長（飯田吉則君） いや、それはもう答えがなければ、それで終わっていただければ、時間がストップしてますので。

○7番（山下由美君） とりあえずそれで、終わります。

○議長（飯田吉則君） 次、質疑をお願いします。

7番、山下由美議員。

○7番（山下由美君） どういうのでしょうか。私は今回のこの外出支援サービスの本当に大きな問題点といいますのは、外出支援サービスを利用しておられる当事者の御意見を全く伺うことなく、決定されたということだと思うわけでありますね。

例えば、2006年に国際連合で「障害者の権利に関する条約」、これが採択されて、我が国も2014年1月に、同条約を批准、条約に書かれていることを守ろうと、国として約束しておるわけですが、この条約の制定におきましても、世界各国の障がいのある方々が参画しておられるわけです。そしてそのときの合い言葉が、「私たちのことを抜きに、私たちのことを決めないで。」これなんです。「私たちのことを抜きに、私たちのことを決めないで。私たちのことを何も聞かずに、私たちのことを決めないで。」これだったわけです。

こういう意味合いからも、私はこの3月の議会のときの市長の発言、応益負担の考え方を取り入れましたというお答えに、どうしても、どうしても、なぜそのようなことを言われたのかということが、ずっと疑問に残ったので、今質問させてもらっておるわけであります。

私は、やはり人間的な温かい心と、的確で総合的な判断力を持って、外出支援サービスを再検討する。その必要性を強く求めていきたいと思いますが、市長いかがでしょうか。

○議長（飯田吉則君） 福元市長。

○市長（福元晶三君） 先ほど反問権申し訳ありませんでしたね。ちょっと具体的なことまで、よういかなんだんですが、ただこういう議会を通じて、いろいろ議論を深めるという意味で大変失礼しました。

冒頭、御答弁申し上げたとおり、いよいよこの見直しについては、議会ともいろいろ御意見をお伺いする中で、喧々諤々の中で将来にわたって持続させていこうと、そのためにはということも含めてで、3月にああいう形で議決をいただいたところでもあります。冒頭申し上げたとおり、この4月から見直した内容で事業が始まっております。まずは利用実績等々、しっかり状況を把握した上で、さらにこれからど

うあるべきなのか、より持続をさせていくためどうなのか。これそれぞれやっばり点検・評価しながら進めなくてはならないと、このように考えておりますので、そんな観点でありますので、よろしくお願い申し上げます。

○議長（飯田吉則君） 7番、山下由美議員。

○7番（山下由美君） そのSDGsの観点に立って、誰一人取り残されることなく、外出支援サービスの方向性を人間的な温かい心と、的確な総合的な判断力を持って、検討していただきたいと強く求めて、外出支援サービスの質問は終わらせていただきます。

続きまして、すいません。ちょっと学校給食費の無料化をということで、先ほど教育部長から御回答いただきました。確かに文部科学省が、給食費の値上げ抑制に、臨時交付金の活用を自治体に要請したことにより、宍粟市におきましても、保護者が負担する学校給食費増額分に対して、臨時交付金を活用し生活支援を図る補正予算と、議案提出してくださっております。

そして、先ほど学校教育法におきまして、給食費は保護者の負担と示されていると、うたわれているとおっしゃられましたけれども、憲法26条には、義務教育はこれを無償にするとうたっております。そういうことから考えても、本来ならば、この義務教育に係る費用の中でも負担が重い学校給食費におきましても、やはり無償化を図るべきであると思います。

それで、それでも宍粟市におきましては、先ほども言われたように地産地消、非常にずっと以前から、その給食に関わる人たちが、大変な御努力を重ねてくださって、そして本当に子どもたちにより良い食品を食べてもらう、食料ということでね、頑張ってくださいることを、本当によく分かるわけであります。

そして、その上にこの学校給食費の無償化というのがプラスされたら、本当に宍粟市は子育て支援の優れたまちとして、たくさんの若者が来てくださるような方向が何か見えるような、私はそのような気がいたしまして、この質問させていただいておるわけでありましてけれども、市長にお尋ねするわけですが、この学校給食費の無償化について、今後どのように考えていこうと思われているのか、ということを実問させていただいて、私の一般質問は終わらせていただきたいと思います。

○議長（飯田吉則君） 福元市長。

○市長（福元晶三君） この問題は、非常に政策的にアプローチをかけるのも、非常に難しい課題だと私は捉えております。おっしゃるように、保護者の皆さんもいろんな考え方がございます。もちろん給食費を上げてでもしっかりしてほしいという

方もたくさんいらっしゃいます。そういうことももろもろ今日的な課題として、私自身は捉えております。

しかし、現状を考えたときに、教育部長から答弁があったとおり、今1億2,000万円ほどして、約1億円ほど保護者の皆さんに負担をしていただいている。それを市がということになると、現状の財政状況を見ると非常に難しい課題だと。それからもう一方、確におっしゃったように、義務教育という観点の中で、義務教育は憲法でそのとおりであります、じゃあ誰が義務を負うんかということ、この論点もいろいろあるわけではあります、そういうことも含めながら、今後このことは検討していきたいと思いますが、現状では無償化というのは非常に難しいと、このように考えております。

○議長（飯田吉則君） これで、7番、山下由美議員の一般質問を終わります。

続いて、浅田雅昭員の一般質問を行います。

4番、浅田雅昭議員。

○4番（浅田雅昭君） 4番、浅田です。それでは一般質問させていただきます。今定例会一般質問の最後になりました。よろしくお願いをいたします。

今回は、市街地における太陽光発電施設の設置抑制について御質問をいたします。

承知していただいていると思いますけども、今回御質問しております太陽光発電施設、これについては家屋の屋根や壁面、屋上に設置するもの以外の施設でありまして、宍粟市太陽光発電施設設置事業に関する条例の適用を受ける施設でございます。また、この質問事項につきましては、私が所属する常任委員会所管事項でございますので、現状や事務的なことにつきましては、委員会で担当部局よりお聞きしますので、市長のお考えを伺いたいと思いますので、その点でよろしくお願いをいたします。

市長が、3月24日の定例会最終日に、2050年までに二酸化炭素排出量の実質ゼロを目指すゼロカーボンシティ宣言を表明されました。環境に優しい低炭素社会を実現するため、太陽光などの再生可能エネルギーの利用は、促進していかなければなりません。しかし同時に、市民の快適な生活環境の確保も必要です。宍粟市においては先ほど申しましたように、宍粟市太陽光発電施設設置事業に関する条例を制定して、良好な生活環境の保全に取り組んでいますが、私は課題も見えてきたのではないかなと思って、今回の質問でございます。

宍粟市総合計画に定める第2のダム機能、これを牽引する宍粟市の中心市街地においては、文化・交流・医療・福祉・商業・業務・居住などの都市機能の形成を図

る必要があります。このため、太陽光発電施設の設置を抑制していかなければならないと私は考えますが、市長のお考えを伺います。

これで1回目の質問といたします。

○議長（飯田吉則君） 浅田雅昭員の一般質問に対し、順次答弁を求めます。

福元市長。

○市長（福元晶三君） それでは、浅田議員の御質問にお答え申し上げたいと思います。

お話があったとおり、2050年カーボンシティということで、3月の最終日に宣言をさせていただきました。その後、それを踏まえて宍粟市は、当然であります。「森林から創まる地域創生」を踏まえながら、森をテーマとして、環境問題、各方面でアプローチをかけていきたいと、このように考えております。同時にその後、環境省ともいろいろな学習会、あるいはいろんな話し合いの場も参加をさせていただきました。

その中で太陽光についても、これまで法の規制の中で、いろいろあるわけですが、御承知のとおり、林地開発その他含めていろいろありまして、果たして現状の法規制で、このことが解決できるのかという提案もしながら、それぞれ基礎自治体においても、各方面で苦慮してる部分があると、ぜひ見直せるところについては、よりゼロカーボンを進める上においても、あるいは再生可能エネルギーの導入についても、よりこれまでの経緯、経過を踏まえながら、国としても検討願いたいと、こんな話し合いをしたところであります。

その上に立って、太陽光発電施設を含めて、再生可能エネルギーの導入については、まさに脱炭素社会の実現に向け、国を挙げて推進をされている状況であります。したがって、宍粟市も脱炭素社会に向かって、市民の皆さんとそれぞれ課題も共有しながら、その方向を向いて進めていきたいと、このように考えておるところであります。

しかしながら、昨今では急速に太陽光発電施設の設置が進む中で、付近の、特に住民の皆さんから不安の声を受けておることも承知しております。そういった観点から、昨年度から条例を施行する中で、住環境に配慮した適切な施設設置と維持管理に努めていただくよう、設置者並びに管理者へ指導をしているところであります。市の条例についても、上位法との関係の中でいろいろあるわけですが、可能な限り地域住民の皆さんと一緒に、先ほど申し上げたとおり、いろんな形で指導をしておると、こういう状況であります。

とりわけ、中心市街地における太陽光発電施設の導入抑制に関しましては、災害を助長させる設置を除き、太陽光発電施設の設置を禁止する法律がなく、また合理的な根拠もなしに、当該施設を含む土地の規制を行うことは、私有地の使用権を著しく規制することとなるため、当条例に基づく適切な施設設置と管理を促していきたい、このように考えております。現状のところはそういう状況でありますので、よろしくお願い申し上げたいと思います。

○議長（飯田吉則君） 4番、浅田雅昭議員。

○4番（浅田雅昭君） 現状は理解をしております。再質問をさせていただきます。

今、都市計画道路、山田下広瀬線が整備が進められております。これは良好な市街地の形成を誘導するための基盤整備であろうと私は認識しております。この路線が整備されることによって、その周辺というのは、商業施設や住宅地など、開発が非常に見込まれてきます。このことから、やはり今後計画的な土地利用というのは、非常に大切ではないかなと思います。

当然ここは、用途地域でございますので、用途の指定はあるんですけども、それ以外に、今後やはり良好な跡地利用を推進するために、何か手だてが必要だと考えておるんですけども、その辺のお考えをお聞かせください。

○議長（飯田吉則君） 福元市長。

○市長（福元晶三君） 良好な市街地の形成、そのための誘導の推進と、こういう観点の御質問だと思いますが、特に山田下広瀬線の沿線は、現在進捗中の都市計画道路山田下広瀬線につきましては、まさにおっしゃったとおり、中心市街地から中国道以南を結ぶ道路でありまして、大型の商業施設に近接することから、沿道地域の利便性がますます増えてくるところを期待しております。同時にその周辺の土地利用が促進されると、このように思っております。

このことから、用途地域を基本とした土地利用を誘導することによって、混在した土地利用による環境悪化を防ぎ、場合によっては、地区計画の策定により、景観に据えた中心市街地エリアにおける、いわゆる宍粟市の拠点づくりに取り組んでいきたいと、こんなことも考えておるところであります。

まさにそのことによって、道路ができることによって、周辺の地域により活力を持って、そのまちの第2のエリアをつくっていききたいと、こういう考え方でありますので、そういう意味では、景観もしっかり捉えていかなくはないと考えております。

○議長（飯田吉則君） 4番、浅田雅昭議員。

○４番（浅田雅昭君）　そうですね。これも都市計画区域の中でも、地区計画の見直しということもされておりますので、今後そういう念頭に、今後の推移を見ていきたいなと思います。また、こども園も２園新たに整備が進められておりますので、その辺の環境というのも、今後検討していかなければならないのかなと思っています。これは、また委員会の中でも、いろいろと議論も調査もさせていただきたいなと思います。

そこで、最後に、一般質問の質問回数は１議題３回以内を基本としておりますので、一応最後の質問ということで、提案なんですけども、いわゆる用途指定は、あるいは地区計画という言葉は別としても、それはそれとして、良好な市街地の形成を図るという観点から、いわゆるこの本条例には、設置の禁止区域の規定がございます。ただ、今私が言いたかったのは抑制ということで、新たに条例の中で抑制区域というのを設定できないか。そういうことを提案をさせていただきたいなと思います。

今市長の答弁で、法的なところということもございましたので、今後のことになろうかと思いますが、できれば都市計画のマスタートプラン、今策定が進んでおります。この中にも、第２のダム機能を牽引するエリアとか、それから市街地ゾーンというのを設定されております。そういうゾーンで抑制区域を設定するとか、あるいは、せめて今整備が進んでおります都市計画道路、山田下広瀬線の起点から終点、都市計画道路、船元中広瀬線、ここに至るエリア、ここが重要な新たな都市形成に重要なエリアですので、その辺を抑制区域として何か設定できないかなということ提案をしたいわけです。

今なぜかといいますと、やはり宍粟市今、日本一の風景街道づくりを進めております。中心市街地の城下町としての最上山公園も含めて、歴史的景観形成地区指定、これを受けてますけれども、これもこういう風情ある町並みも誇れる風景でありますし、またこの都市計画として新たに形成していく町並み、これも今後残していく風景、私は日本一の風景街道づくりは、まちづくりというふうに思っておりますので、この都市計画道路が新たに整備されることによって、ここに新たなまちづくりをする、風景づくりをしていくということが、今からしていかなければなりませんので、そういう中で一つのエリアというのを、抑制区域に設定できないかと思うわけです。

市長、今どのようにお考えかお聞かせください。

○議長（飯田吉則君）　福元市長。

○市長（福元晶三君） 大変複雑なところで、法律的な問題もありますし、私が考えられるところ、御質問についてもお答え申し上げたいと思うんですが、まさに風景街道を進める上において、基本的にはいろんな景観を形成することながら、新たな景観をつくっていかないかん。それは町並みも含めてであると、このように思いますし、それはそのとおりだと、このように思っています。

そこで、都市計画マスタープランでは、都市機能が集積する中心市街地エリアを、宍粟市の拠点と位置づけておりまして、生活の利便性の向上であったり、あるいは活力の創出、さらには居住環境の形成などの取組によって、いわゆるおっしゃったように、我々考えております第2のダム機能として、市外への人口の流出の抑制を図っていききたい、こんな考えでおりますし、そういうものだと思っております。

その中では、中心市街地は良好な住環境の形成を目指す区域としておるところであります。太陽光発電施設においては、特に土地に自立した建築物を伴っておりませんので、いわゆる建築物や、さらに工作物というものに該当しないと、このようになっておりまして、いわゆる建築基準法の適用を受けず、都市計画法に基づく土地利用は建築に関するものでありまして、規制や誘導する計画そのものは立てられないと、このようになっておると私は認識をしておりますので、そのように御理解いただけたらと思います。

したがって、都市計画道路など都市施設が整備されることによりまして、沿道もしくは周辺において、住宅地やあるいは商用地として、土地利用が進むことを大きく期待した制度であります。そういう観点で、太陽光そのものの在り方が、その周辺にどうかということでもありますので、冒頭申し上げたとおり、基本的にはそういったことについては、住民の皆さんの十分な理解を得る中で協議する中で、またしっかり指導する中で、現在の条例に基づいて進める以外ないのかなと、このように考えております。

以上、雑駁な答弁で申し訳ないんですが、そのように私は理解しております。

○議長（飯田吉則君） 4番、浅田雅昭議員。

○4番（浅田雅昭君） 法的なところの現状も理解をしました。今後いろいろ国に働きかけもしていただいておりますので、今後は所属の委員会で条例の運用とか、都市計画に係る指導等、引き続き調査をしていきたいと思っております。

これで終わります。

○議長（飯田吉則君） これ4番、浅田雅昭議員の一般質問を終わります。

ここで、10時45分まで休憩に入ります。

午前 10 時 35 分休憩

午前 10 時 45 分再開

○議長（飯田吉則君） 休憩を解き、会議を再開いたします。

日程第2 第44号議案

○議長（飯田吉則君） 日程第2、第44号議案、令和3年度宍粟市一般会計補正予算（第12号）の専決処分（専決第8号）の承認についてを議題といたします。

本議案は、去る5月31日の本会議で予算決算常任委員会に審査を付託していたものであります。

予算決算常任委員会の審査の経過と結果の報告を求めます。

予算決算常任委員長、15番、大久保陽一議員。

○予算決算常任委員長（大久保陽一君） 5月31日審査付託のありました、第44号議案、令和3年度宍粟市一般会計補正予算（第12号）の専決処分（専決第8号）の承認について、審査を行いましたので、会議規則第111条の規定により報告いたします。

付託当日に第4回予算決算常任委員会を開催し、運営要綱の規定により、詳細審査を2分科会で分担して行うことと決定しました。6月2日に総務経済分科会、3日に文教民生分科会を開催し、関係職員に説明を求め、審査を行いました。その後、6月8日に第5回予算決算常任委員会を開催し、分科会の審査報告を受け、全体会で審査を行いました。

総務経済分科会が審査した第44号議案の関係部分の主な内容は、令和3年度に完了できなかった事業の繰越明許費を計上するものです。総務費では、年度末に森林大学校の学生住居の屋根の一部が破損し、緊急工事を行ったほか、光ケーブルネットワーク施設機器の不具合への対応などを行ったものです。また、土木費では、道路維持補修事業において、関係者との協議に時間を要したほか、災害復旧費において、降雪が多く3月末までの完成ができなかったものです。

関係職員に説明を求め慎重に審査し、参考に賛否の確認をしましたところ、第44号議案の関係部分につきましては、全会一致で承認すべきものであったとのことです。

次に、文教民生分科会が審査した第44号議案の関係部分の主な内容は、令和4年4月開校の葛沢小学校校旗の作成が、製造元において新型コロナウイルス感染症のクラスターが発生したことにより納品が遅れ、年度内完了が困難となり、繰越明許

費の追加を行ったものです。校旗は令和４年４月６日に納品となり、４月７日の開校式には間に合ったとのことであります。

以上、関係職員に説明を求め慎重に審査し、参考に賛否の確認をしましたところ、第44号議案の関係部分につきましては、全会一致で承認すべきものであったとのこととです。

全体会で以上の分科会審査報告の後、質疑と自由討議を行いました。

採決しました結果、第44号議案については、全会一致で承認すべきものべきものと決しました

以上、報告いたします。

○議長（飯田吉則君） 予算決算常任委員長の報告は終わりました。

続いて質疑を省略して討論を行います。

御異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

○議長（飯田吉則君） 御異議なしと認めます。

これより討論を行います。

本議案に関しましては、発言通告が提出されておられませんので、これで討論を終了したいと思います。

御異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

○議長（飯田吉則君） 御異議なしと認めます。

よって、討論を終わります。

これより採決を行います。

本議案に対する委員長報告は、承認であります。

お諮りします。

第44号議案については、委員長報告のとおり承認することに御異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

○議長（飯田吉則君） 御異議なしと認めます。

第44号議案は、委員長報告のとおり承認することに決しました。

日程第３ 第４５号議案～第４６号議案

○議長（飯田吉則君） 日程第３、第45号議案、宍粟市税条例の一部改正の専決処分（専決第９号）の承認について及び、第46号議案、宍粟市国民健康保険税条例の一部改正の専決処分（専決第10号）の承認についての２議案を一括議題とします。

本２議案は、去る５月３１日の本会議で文教民生常任委員会に審査を付託していたものであります。

文教民生常任委員会の審査の経過と結果の報告を求めます。

文教民生常任委員長、１０番、大畑利明議員。

○文教民生常任委員長（大畑利明君） 令和４年５月３１日に審査付託のありました、第４５号議案、宍粟市税条例の一部改正の専決処分（専決第９号）の承認についてから、第４６号議案、宍粟市国民健康保険税条例の一部改正の専決処分（専決第１０号）までの２議案につきましては、６月３日に第４回文教民生常任委員会を招集して審査を行いましたので、会議規則第１１１条の規定により報告いたします。

まず、第４５号議案の主な内容は、固定資産税について、令和４年度に限り、商業地等に係る課税標準額の上昇幅を従前の半分にするもののほか、固定資産課税台帳の閲覧及び証明書の交付に係る、ＤＶ被害者等に対する支援措置について規定するもののほか、地方税法等の改正に伴う文言の整理、引用部分の条項ずれに対応するものであります。

次に、第４６号議案の主な内容は、地方税法施行令等の改正により、令和４年４月１日から基礎課税額の限度額が変更されることに伴い、変更するものであります。

審査の中で委員から、特段の質疑はございませんでした。

関係職員に出席を求め、慎重に審査しました結果、第４５号及び第４６号議案は、全会一致で承認すべきものと決しました。

○議長（飯田吉則君） 文教民生常任委員長の報告は終わりました。

続いて、委員長報告に対する質疑を行います。

質疑はありませんか。

（「なし」の声あり）

○議長（飯田吉則君） 質疑なしと認めます。

以上で質疑を終わります。

これより討論を行います。

本２議案に関しましては、発言通告が提出されておられませんので、これで討論を終了したいと思います。

御異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

○議長（飯田吉則君） 御異議なしと認めます。

よって討論を終わります。

これより採決を行います。

採決は分離して行います。

まず、第45号議案を採決いたします。

本議案に対する委員長報告は、承認であります。

お諮りします。

第45号議案については、委員長報告のとおり承認することに御異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

○議長（飯田吉則君） 御異議なしと認めます。

第45号議案は、委員長報告のとおり承認することに決しました。

次に第46号議案を採決いたします。

本議案に対する委員長報告は、承認であります。

お諮りします。

第46号議案については、委員長報告のとおり承認することに御異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

○議長（飯田吉則君） 御異議なしと認めます。

第46号議案は、委員長報告のとおり承認することに決しました。

日程第4 第48号議案～第49号議案

○議長（飯田吉則君） 日程第4、第48号議案、令和4年度宍粟市一般会計補正予算（第2号）及び、第49号議案、令和4年度宍粟市病院事業特別会計補正予算（第1号）の2議案を一括議題とします。

本2議案は、去る5月31日の本会議で予算決算常任委員会に審査を付託していたものであります。

予算決算常任委員会の審査の経過と結果の報告を求めます。

予算決算常任委員長、15番、大久保陽一議員。

○文教民生常任委員長（大畑利明君） 5月31日審査付託のありました、第48号議案、令和4年度宍粟市一般会計補正予算（第2号）及び第49号議、令和4年度宍粟市病院事業特別会計補正予算（第1号）の2議案について、審査を行いましたので、会議規則第111条の規定により報告いたします。

付託当日に第4回予算決算常任委員会を開催し、運営要綱の規定により、詳細審査を二つの分科会で分担して行うことと決定しました。

6月2日に総務経済分科会、3日に文教民生分科会を開催し、それぞれ関係職員に説明を求め、審査を行いました。

その後、6月8日に第5回予算決算常任委員会を開催し、分担して行った分科会の審査報告を受け、全体会で審査を行いました。分科会の報告は、次のとおりであります。

まず、総務経済分科会が審査した、第48号議案の関係部分の主な内容は、新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を財源に、観光施設の空調設備整備工事を行うほか、自治会への簡易除雪機整備のための補助金を増額するものです。

審査の中で委員からは、観光施設の空調設備整備工事について、金額算出の根拠や、コロナ対策として優先実施する理由についての質疑があり、当局からは、フォレストステーションは、今後の維持管理費の抑制のため、全館一括管理から各部屋での個別管理システムへと一式を新設するため、高額になっているとの回答がありました。

そのほか、関係職員に説明を求め慎重に審査し、参考に賛否の確認をしましたところ、第48号議案につきましては、全会一致で可決すべきものであったとのことです。

次に、文教民生分科会が審査した、第48号議案の関係部分の主な内容は、民生費では、コロナ禍において、物価高騰等に直面する生活困窮者等への支援として、児童1人当たり5万円を給付する、子育て世帯支援特別給付金の支給を行うための事業費及び事務費の追加計上。衛生費では、新型コロナワクチンの4回目予防接種に必要な事業費の計上。教育費では、一宮北部地域の子どもたちを対象とした、新たな奨学金の創設に当たり、奨学金支給のための予算計上などであります。

審査の中で、委員から、4回目ワクチン接種委託料4,620万円の算出根拠について質疑があり、当局から4回目の接種の対象者は、1万5,000人を見込み、個別接種に関して国が定める基準、1人当たりの基本接種料と時間外診療の単価を加えて算出した額を、委託料として計上しているとの答弁があったとのことです。

関係職員に説明を求め、慎重に審査し、参考採決を行った結果、第48号議案の係部分については、全会一致で可決すべきものであったとのことです。

次に、第49号議案の主な内容は、資本的収入及び支出を計上、収入は新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用するため、支出は新型コロナウイルス感染拡大防止の強化を図るためのものです。

審査の中で、委員から生体情報モニター、陰圧装置など、どのように整備していくのかとの質疑があり、当局からは、生体情報モニターについては、ナースステーションで一括管理するセントラルモニターを1台、ベッドサイドモニター4台、モ

バイル用の子機 6 台を整備したい。陰圧装置、オゾン発生装置は、追加整備する。
また、コロナウイルスの検体検査が適正にできるよう、安全キャビネットを追加整備したいとの答弁があったとのこと。

関係職員に説明を求め慎重に審査し、参考採決を行った結果、第49号議案については、全会一致で可決すべきものであったとのこと。

全体会で以上の分科会審査報告の後、質疑と自由討議を行いました。

採決しました結果、第48号議案及び第49号議案の補正予算 2 議案については、全会一致で原案を可決すべきものと決定しました。

以上、報告いたします。

○議長（飯田吉則君） 予算決算常任委員長の報告は終わりました。

続いて質疑を省略して討論を行います。

御異議はありませんか。

（「異議なし」の声あり）

○議長（飯田吉則君） 御異議なしと認めます。

続いて討論を行います。

本 2 議案に関しましては、発言通告が提出されておられませんので、これで討論を終了したいと思います。

御異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

○議長（飯田吉則君） 御異議なしと認めます。

よって、討論を終わります。

これより採決を行います。

採決は分離して行います。

まず、第48号議案を採決いたします。

本議案に対する委員長報告は、可決であります。

お諮りします。

第48号議案については、委員長報告のとおり可決することに御異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

○議長（飯田吉則君） 御異議なしと認めます。

第48号議案は、委員長報告のとおり可決されました。

続いて第49号議案を採決いたします。

本議案に対する委員長報告は、可決であります。

お諮りします。

第49号議案については、委員長報告のとおり可決することに御異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

○議長（飯田吉則君） 御異議なしと認めます。

第49号議案は、委員長報告のとおり可決されました。

日程第5 第50号議案～第51号議案

○議長（飯田吉則君） 日程第5、第50号議案、宍粟市田中登奨学基金条例の制定について及び、第51号議案、宍粟市田中登奨学金支給条例の制定についての2議案を一括議題とします。

本2議案は、去る5月31日の本会議で文教民生常任委員会に審査を付託していたものであります。

文教民生常任委員会の審査の経過と結果の報告を求めます。

文教民生常任委員長、10番、大畑利明議員。

○文教民生常任委員長（大畑利明君） 令和4年5月31日に審査付託のありました、第50号議案、宍粟市田中登奨学基金条例の制定についてから、第51号議案、宍粟市田中登奨学金支給条例の制定についてまでの2議案は、令和4年6月3日に第4回文教民生常任委員会を招集して審査を行いましたので、会議規則第111条の規定により報告いたします。

第50号及び第51号議案の内容は、令和4年1月、一宮町公文出身の故田中登氏の御親族から、一宮町北部地域の子どもたちの育成のための寄附申出を受けたことから、その寄附金を原資とした「田中登奨学基金」を設置するとともに、給付型の奨学金支給事業を実施するための条例の制定であります。

審査の中で委員から、奨学金支給について、支給の可否を決定する経済的理由による、就学が困難である基準についての質疑がありました。

当局からは、経済的理由による就学が困難である基準とは、宍粟市奨学金支給条例と同じ基準を用いるとの回答がありました。

次に、奨学金の取消し及び返還の規定について、例えば、学費の払えない等の理由による自主退学の場合であっても、遡及して返還する規程とするのか。また、条例9条4号に、教育委員会が必要と認める場合という取扱いの基準は何か、どこに規定するののかとの質疑がありました。

当局からは、自主退学による場合は、奨学金の遡及返還は求めないと考えているので、返還に関しては、施行規則の中で明記するよう検討したい。また、条例第9

条4号の教育委員会が必要と認める場合の取扱い事例は、内規で規定するとの答弁がありました。

関係職員に出席を求め、慎重に審査しました結果、第50号及び第51号議案は、全会一致で、可決すべきものと決しました。

以上、報告いたします。

○議長（飯田吉則君） 文教民生常任委員長の報告は終わりました。

続いて、委員長報告に対する質疑を行います。

質疑はありませんか。

（「なし」の声あり）

○議長（飯田吉則君） 質疑なしと認めます。

以上で質疑を終わります。

これより討論を行います。

本2議案に関しましては、発言通告が提出されておられませんので、これで討論を終了したいと思います。

御異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

○議長（飯田吉則君） 御異議なしと認めます。

よって討論を終わります。

これより採決を行います。

採決は分離して行います。

まず、第50号議案を採決いたします。

本議案に対する委員長報告は、可決であります。

お諮りします。

第50号議案については、委員長報告のとおり可決することに御異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

○議長（飯田吉則君） 御異議なしと認めます。

第50号議案は、委員長報告のとおり可決されました。

続いて第51号議案を採決いたします。

本議案に対する委員長報告は、可決であります。

お諮りします。

第51号議案については、委員長報告のとおり可決することに御異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

○議長（飯田吉則君） 御異議なしと認めます。

第51号議案は、委員長報告のとおり可決されました。

日程第6 第52号議案

○議長（飯田吉則君） 日程第6、第52号議案、宍粟市職員の互助共済制度に関する条例の一部改正についてを議題とします。

本議案は、去る5月31日の本会議で総務経済常任委員会に審査を付託していたものであります。

総務経済常任委員会の審査の経過と結果の報告を求めます。

総務経済常任委員長、8番、津田晃伸議員。

○総務経済常任委員長（津田晃伸君） 令和4年5月31日に審査依頼のありました、第52号議案、宍粟市職員の互助共済制度に関する条例の一部改正については、令和4年6月2日に、第4回総務経済常任委員会を招集して審査を行いましたので、会議規則第111条の規定により報告いたします。

第52号議案の主な内容は、市が互助会事業を委託している、兵庫県市町職員互助会の会員要件が改正されたことに伴い、所要の文言の整理を行うものです。制度の補足説明として、パートタイムの会計年度任用職員は、掛金を徴収したとしても、長期に在職することが条件のものがあるなど、互助事業の恩恵が限定されてしまうため、市では対象としていないとのことでした。

参考に賛否の確認をしましたところ、第52号議案は、全会一致で可決すべきものと決しました。

以上、報告いたします。

○議長（飯田吉則君） 総務経済常任委員長の報告は終わりました。

続いて、委員長報告に対する質疑を行います。

質疑はありませんか。

（「なし」の声あり）

○議長（飯田吉則君） 質疑なしと認めます。

以上で質疑を終わります。

これより討論を行います。

本議案に関しましては、発言通告が提出されておられませんので、これで討論を終了したいと思います。

御異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

○議長（飯田吉則君） 御異議なしと認めます。

よって討論を終わります。

これより採決を行います。

本議案に対する委員長報告は、可決であります。

お諮りします。

第52号議案については、委員長報告のとおり可決することに御異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

○議長（飯田吉則君） 御異議なしと認めます。

第52号議案は、委員長報告のとおり可決されました。

日程第7 第53号議案

○議長（飯田吉則君） 日程第7、第53号議案、宍粟市税条例等の一部改正についてを議題とします。

本議案は、去る5月31日の本会議で文教民生任委員会に審査を付託していたものであります。

文教民生常任委員会の審査の経過と結果の報告を求めます。

文教民生常任委員長、10番、大畑利明議員。

○文教民生常任委員長（大畑利明君） 令和4年5月31日に審査付託のありました、第53号議案、宍粟市税条例等の一部改正については、令和4年6月3日に、第4回文教民生常任委員会を招集して審査を行いましたので、会議規則第111条の規定により報告いたします。

第53号議案の主な改正内容は、住宅借入金等特別控除の適用期限、及び控除期間の延長、市民税の申告等に係る部分の改正、及び不動産登記法の改正に伴う、DV被害者等に係る支援措置を実施した上で、固定資産課税台帳の閲覧や記載事項の証明の交付を実施するとされたもののほか、上位法の改正に伴う文言の改正、引用部分及び条項ずれに対応するものであります。

審査の中で委員から、DVの被害者の支援措置の実施について、住所を特定されないために、住所に代わる事項の記載をすることは、具体的にどのようにすることなのかとの質疑があり、当局からは、DV被害者等の支援措置は、申出によって住所に代わる事項を記載する例として、例えば、委任を受けた弁護士の住所とか、被害者支援団体等の住所、地方法務局の住所などが想定されています、との答弁がありました。

関係職員に出席を求め、慎重に審査しました結果、第53号議案は全会一致で、可

決すべきものと決しました。

以上報告いたします。

○議長（飯田吉則君） 文教民生常任委員長の報告は終わりました。

続いて、委員長報告に対する質疑を行います。

質疑はありませんか。

（「なし」の声あり）

○議長（飯田吉則君） 質疑なしと認めます。

以上で質疑を終わります。

これより討論を行います。

本議案に関しましては、発言通告が提出されておられませんので、討論を終了したいと思います。

御異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

○議長（飯田吉則君） 御異議なしと認めます。

よって討論を終わります。

これより採決を行います。

本議案に対する委員長報告は、可決であります。

お諮りします。

第53号議案については、委員長報告のとおり可決することに御異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

○議長（飯田吉則君） 御異議なしと認めます。

第53号議案は、委員長報告のとおり可決されました。

日程第8 第54号議案

○議長（飯田吉則君） 日程第8、第54号議案、旧慣による公有財産の使用権の廃止についてを議題とします。

本議案は、去る5月31日の本会議で総務経済常任委員会に審査を付託していたものであります。

総務経済常任委員会の審査の経過と結果の報告を求めます。

総務経済常任委員長、8番、津田晃伸議員。

○総務経済常任委員長（津田晃伸君） 令和4年5月31日に審査依頼のありました、第54号議案、旧慣による公有財産の使用権の廃止については、令和4年6月2日に、第4回総務経済常任委員会を招集して審査を行いましたので、会議規則第111条の

規定により報告いたします。

第54号議案の主な内容は、波賀町において国土交通省が実施する国道の防災事業に当たり、縁故使用地を売却する必要があることから、使用権を廃止するものです。売却に関しては、国土交通省と地元自治会の間で協議等が完了している旨の説明がありました。

参考に賛否の確認をしましたところ、第54号議案は、会一致で可決すべきものと決しました。

以上、報告いたします。

○議長（飯田吉則君） 総務経済常任委員長の報告は終わりました。

続いて、委員長報告に対する質疑を行います。

質疑はありませんか。

（「なし」の声あり）

○議長（飯田吉則君） 質疑なしと認めます。

以上で質疑を終わります。

これより討論を行います。

本議案に関しましては、発言通告が提出されておられませんので、これで討論を終了したいと思います。

御異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

○議長（飯田吉則君） 御異議なしと認めます。

よって討論を終わります。

これより採決を行います。

本議案に対する委員長報告は、可決であります。

お諮りします。

第54号議案については、委員長報告のとおり可決することに御異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

○議長（飯田吉則君） 御異議なしと認めます。

第54号議案は、委員長報告のとおり可決されました。

日程第9 第55号議案

○議長（飯田吉則君） 日程第9、第55号議案、令和4年度宍粟市一般会計補正予算（第3号）を議題とします。

上程議案に対する提案理由の説明を求めます。

福元市長。

○市長（福元晶三君） 第55号議案、令和4年度宍粟市一般会計補正予算（第3号）につきまして、提案理由の御説明を申し上げます。

今回の補正予算につきましては、コロナ禍における原油価格、物価高騰対応分として拡充された、新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金などの国庫支出金を活用し、物価高騰等に直面する市民や事業者への支援を迅速に行うための予算を追加するものであります。

歳出の主なものとしたしましては、生活困窮者等への支援といたしまして、住民税非課税世帯等に対する臨時特別交付金の受給資格があるにも関わらず、申請がないことにより、受給できていない世帯に対して、令和4年度課税情報を活用し、プッシュ型給付を行うための事業費のほか、食材価格高騰の影響を受ける給食費の増額について、保護者負担を軽減するための予算を計上しております。

加えて、原油価格、物価高騰等の影響を受ける介護障害福祉サービス事業所や、畜産農家などの事業者に対する支援金などを追加しております。

補正額といたしましては、歳入歳出にそれぞれ1億4,178万円を追加し、補正後の総額を238億4,266万2,000円とするものであります。

それぞれ諸事情御賢察の上、原案に御賛同を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

○議長（飯田吉則君） 説明は終わりました。

続いて質疑であります。通告がありませんので、質疑を終了したいと思います。
御異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

○議長（飯田吉則君） 御異議なしと認めます。

これで質疑を終わります。

ただいま議題となっております第55号議案は、予算決算常任委員会に審査を付託いたします。

日程第10 第56号議案

○議長（飯田吉則君） 日程第10、第56号議案、蔦沢小学校統合改修工事請負契約の締結についてを議題とします。

上程議案に対する提案理由の説明を求めます。

福元市長。

○市長（福元晶三君） 第56号議案、蔦沢小学校統合改修工事請負契約の締結につき

まして、提案理由の御説明を申し上げます。

蔦沢小学校につきましては、本年４月に旧伊水小学校の施設を利用し、開校しておりますが、新設統合校としての学習環境を整えるために、必要な改修を行うものであります。本工事の実施に当たり、去る５月30日に入札を執行した結果、株式会社神名工務店、代表取締役、神名大典と契約金額２億4,145万円で工事請負契約を締結しようとするものであります。

原案に御賛同賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

○議長（飯田吉則君） 説明は終わりました。

続いて質疑であります。通告がありませんので、質疑を終了したいと思います。

御異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

○議長（飯田吉則君） 御異議なしと認めます。

これで質疑を終わります。

ただいま議題となっております第56号議案は、文教民生常任委員会に審査を付します。

ここで、委員会審査のため、暫時休憩いたします。

午前 11 時 21 分休憩

午前 11 時 55 分再開

○議長（飯田吉則君） 休憩を解き、会議を再開いたします。

ただいま、文教民生常任委員長から議案の審査が終了したとの報告がありました。お諮りします。

第56号議案を日程に追加し、追加日程第１として議題としたいと思います。

御異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

○議長（飯田吉則君） 御異議なしと認めます。

よって、第56号議案を日程に追加し、議題とすることに決しました。

追加日程第１ 第 56 号議案

追加日程第１、第56号議案、蔦沢小学校統合改修工事請負契約の締結についてを議題とします。

本議案は、本日の本会議で、文教民生常任委員会に審査を付託していたものであります。

文教民生常任委員会の審査の経過と結果の報告を求めます。

文教民生常任委員長、10番、大畑利明議員。

○文教民生常任委員長（大畑利明君） 本日審査付託がありました第56号議案、蔦沢小学校統合改修工事請負契約の締結については、第5回文教民生常任委員会を招集して審査を行いましたので、会議規則第111条の規定により報告いたします。

第56号議案の主な内容は、令和4年4月に旧伊水小学校の施設を利用し、蔦沢小学校を開校いたしました。新設統合校としての学習環境を整えるために、校舎及びプール改修、屋外附帯工事など必要な改修工事として、株式会社神名工務店、代表取締役社長、新名大典氏と契約金額2億4,145万円で工事請負契約を締結しようとするものです。

審査の中で委員から、まずプール改修の必要性及び校舎の耐震工事の必要性はないのかとの質疑がありました。また、地区協議会の意見は十分に反映されているのかという2点の御質疑がありました。

当局からは、まずプールについては、昭和48年7月建設のため、老朽化が進んでいるので、今回改修をしたいということでございます。校舎の耐震につきましては、耐震診断を行いました結果、基準に適合しており、今回改修工事の必要性はないという答弁がございました。

また、地区協議会からの意見範囲については、防球ネットの要望があり、今回の工事で、防球ネットを新設するとの答弁がございました。

関係職員に出席を求め、慎重に審査をしました結果、第56号議案は全会一致で可決すべきものと決しました。

以上報告いたします。

○議長（飯田吉則君） 文教民生常任委員長の報告は終わりました。

続いて、委員長報告に対する質疑を行います。

質疑はありませんか。

（「なし」の声あり）

○議長（飯田吉則君） 質疑なしと認めます。

以上で質疑を終わります。

これより討論を行います。

本議案に関しましては、発言通告が提出されておられませんので、これで討論を終了したいと思います。

御異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

○議長（飯田吉則君） 御異議なしと認めます。

よって討論を終わります。

これより採決を行います。

本議案に対する委員長報告は、可決であります。

お諮りします。

第56号議案については、委員長報告のとおり可決することに御異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

○議長（飯田吉則君） 御異議なしと認めます。

第56号議案は、委員長報告のとおり可決されました。

以上で本日の日程は終了いたしました。

次の本会議は、6月15日午前9時30分から開会いたします。

本日はこれにて散会いたします。

御苦労さまでした。

（午後 0時00分 散会）